



株式会社 **W TOKYO** (証券コード:9159)

## 事業計画及び成長可能性に関する説明資料

2024年9月

# コンテンツ

- 1 イントロダクション
- 2 W TOKYOの強みの源泉、TGCのブランド力
- 3 ブランド力に裏打ちされた、高い利益創出力
- 4 成長戦略、事業の発展性
- 5 補足資料



WE ARE

# BRANDING COMPANY

TOKYO GIRLS COLLECTION(「TGC」)を

圧倒的ブランド力と拡散力を持つプラットフォームに育て上げてきたノウハウを活かし

多層的な経済圏を築くことで唯一無二の付加価値を創造し続けます

## VISION

すべてのヒト・モノ・コト・地域が輝く舞台をつくる

## MISSION

TGCブランドを活かした独自のプロデュースノウハウを軸に、  
ヒト・モノ・コト・地域のまだ見ぬ価値を共創し、その価値を最大化させる



TOKYO GIRLS COLLECTION(「TGC」)とは



# TOKYO GIRLS COLLECTION

by girlswalker

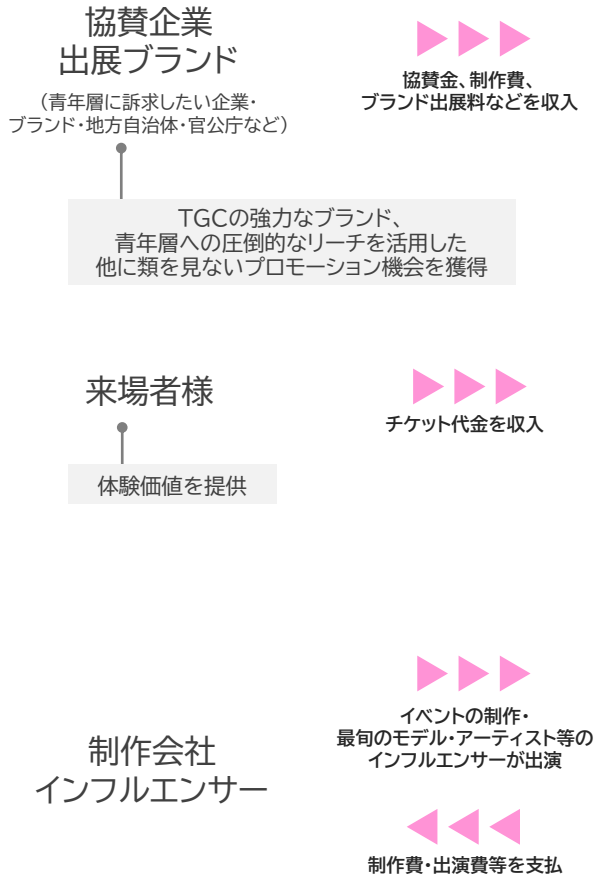
日本を代表するインフルエンサーが集い、  
年2回開催される**史上最大級のファッションフェスタ**。

2005年より通算39回の開催で  
青年層カルチャーの先端を走り続けてきた。

Z世代を中心とした若年世代から圧倒的な支持を受けつつ、  
幅広い世代から愛され  
唯一無二の強力なブランドを確立している。

## TGCプロデュース領域

TGC東京開催、及びTGC地方開催やシティプロモーションを通じてサービスや商材、社会課題などについて、発信力を強みとする領域



TGCの強力なブランド、青年層への圧倒的なリーチを活用した他に類を見ないプロモーション機会を獲得

# W TOKYO

年2回のTGC東京開催やTGC地方開催、シティプロモーション、その他プロモーションを毎年多数実施

## ● TGC東京開催

毎年春夏(S/S)、秋冬(A/W)の2回開催される、TGCのブランド創造の場。圧倒的な熱量を感じられる会場からの観覧に加え、各種配信プラットフォームを通じたオンライン配信からも多くの視聴者が同時体感。



TGC 2024 S/S



TGC 2023 A/W

## ● TGC地方開催・シティプロモーション

TGC開催ノウハウやキャスティング力を活かし、地域の魅力や固有のコンテンツを取り上げる「TGC地方開催」。同様に各地域の魅力を前面に押し出しつつ、自治体固有のニーズに応じて行う「シティプロモーション」。各自治体の抱える社会課題に応じて、地域・都市の活性化を促し、地方創生を推進するプロジェクトとして、複数の自治体向けに展開。



TGC しずおか 2024



SDGs FES in EDOGAWA

## ● その他プロモーション

TGCで培ったノウハウを活かし、プロモーション機会の提供、企業のPRコンサルティング、イベント制作等を展開

# W TOKYOの事業モデル(2/2)

コンテンツプロデュース・  
ブランディング領域

様々なモノ・コトとTGCブランドのコラボにロイヤリティビジネスや、  
プロデュースノウハウを活かした、新たな価値を創造する領域



など

- TGCのブランドとのコラボにより、ブランドロイヤリティを生むモデル
- プロデュースノウハウやネットワークを活かして、商材・サービスのブランディングを行い、クリエイティブ制作費収入・キャスティング収入を得る

▼  
▼  
▼

ブランドロイヤリティ、キャスティング費、  
クリエイティブ制作費等を収入

# W TOKYO

- TGCブランドロイヤリティ収入  
様々な商品やサービスとTGCのブランドを掛け合わせ、TGCブランドによるロイヤリティ収入を生む

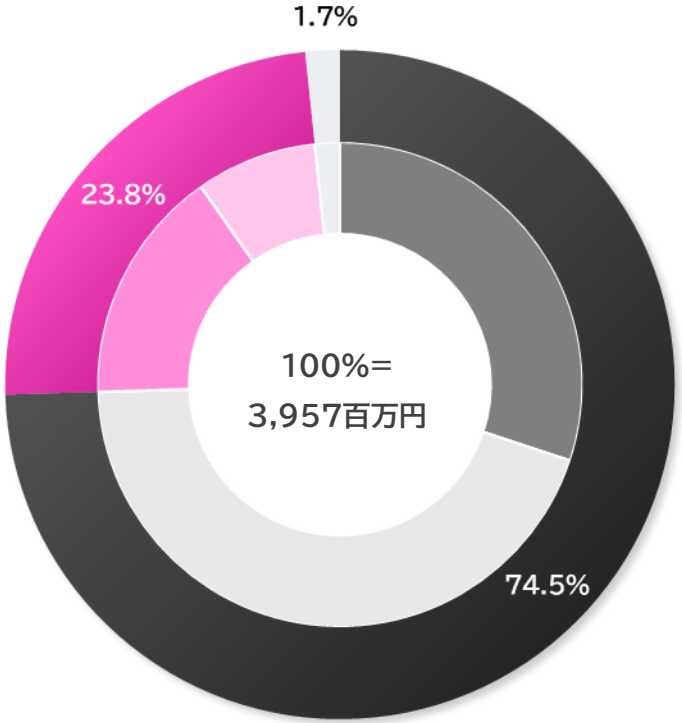


- アーティストコラボレーション  
アーティスト・タレントのキャスティングとクリエイティブ制作等を行い、クライアントのサービス・商材のブランディングを担う

# 2024年6月期における収益の状況

事業の中核である、TGCの強力なブランド力に裏打ちされた、**高い利益創出力**が特色。

● 売上高の構成



- TGCプロデュース領域
- コンテンツプロデュース・ブランディング領域
- デジタル広告領域
- TGC東京開催
- アーティストコラボレーション\*\*\*
- 地方創生プロジェクト・その他プロモーション\*\*
- その他ブランド展開\*\*\*\*

● 売上総利益

約 **15.1** 億円 対売上高マージン **38.3** %

● 調整後営業利益\*

約 **6.7** 億円 対売上高マージン **17.0** %

● 調整後当期純利益\*

約 **4.6** 億円 対売上高マージン **11.7** %

\* のれん償却額及び商標権償却額を調整した営業利益及び当期純利益。  
 \*\* TGC地方開催やシティブロモーション、その他プロモーション受託等に係る売上。  
 \*\*\* アーティスト・タレントのキャスティングとクリエイティブ制作等を行い、クライアントのサービス・商材のブランディングを担うことによる売上。  
 \*\*\*\* TGCブランドを活用した売上(ブランドロイヤリティ受領ビジネス、TGC AUDITION、TGC SCHOOL、TGC公式ファンクラブTGC Premiumの会員収入 等)。



# 2024年6月期におけるTOKYO GIRLS COLLECTION・地方創生プロジェクト

TGC地方開催やシティプロモーション開催実績は2023年6月期よりも増加しており、TGCプロデュース領域は着実に成長。ファッションショー以外でも、SDGsブランディング、商品プロモーション、店舗誘致など様々な形で地方創生に貢献。

TGC 2023 A/W



2023/9

TGC 2024 S/S



2024/3

2023/10

TGC 北九州 2023



2024/1

TGC しずおか 2024



2024/2

TGC 和歌山 2024



2024/4

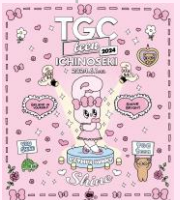
TGC 熊本 2024



2023/10  
TGC FES 山梨 2023



2023/11  
BISHU COLLECTION



2024/6  
TGC teen ICHINOSEKI 2024



# IPO以降、W TOKYOが仕込んできた様々な提携のあゆみ



**仕込んできた各施策の結実と、更なる発展に向けて:**

- 地銀との連携協定の具体的取組みに着手
- 地方自治体が直面する社会課題に対してイベント以外の形でも価値提供を一層強化
- シナジーを見込める民間企業と提携を検討

# W TOKYOの向き合う市場

TOKYO GIRLS COLLECTION × ∞  
by girlswalker

インターネット広告市場規模\*

約 **3.3** 兆円  
(2023年)

ライブ・エンタテインメント市場規模\*\*

**6,857** 億円  
(2023年)

リアル・SNSともに強みをもつW TOKYOは、  
様々なテーマとTGCブランドを組み合わせたり  
プロデュースノウハウを活かしてヒト・モノ・コト・地域をブランディングしたり  
事業機会を自ら生み出すことにより、向き合う市場の広がりを持つ

- W TOKYOが生み出す事業機会の一例：

多様な商材の  
ブランドロイヤリティ



DAISOとTGCがコラボしたコスメブランド

地方創生



TGC地方開催や  
シティプロモーションを通じた地方開催

Web3



Web3.0を活用した  
グローバルエンタメコンテンツ展開のため  
YOAKE entertainmentの設立・出資

出所：  
\* 株式会社電通が2024年2月27日に発表した『2023年 日本の広告費』  
\*\* ぴあ総研が2024年6月18日に発表したライブ・エンタテインメント市場動向の調査結果

# コンテンツ

- 1 イントロダクション
- 2 W TOKYOの強みの源泉、TGCのブランド力
- 3 ブランド力に裏打ちされた、高い利益創出力
- 4 成長戦略、事業の発展性
- 5 補足資料



総体感人数

約 **500万** 人

TGC 2024 S/Sにおける実績。

メディア掲載数

**1万** 媒体以上

TGC 2024 S/Sにおける掲載実績。

SNS総フォロワー数

**244万** 以上

2024年9月時点。

関連SNS投稿

**110万** 投稿以上

TGC 2024 S/Sにおける実績。

関連SNS拡散

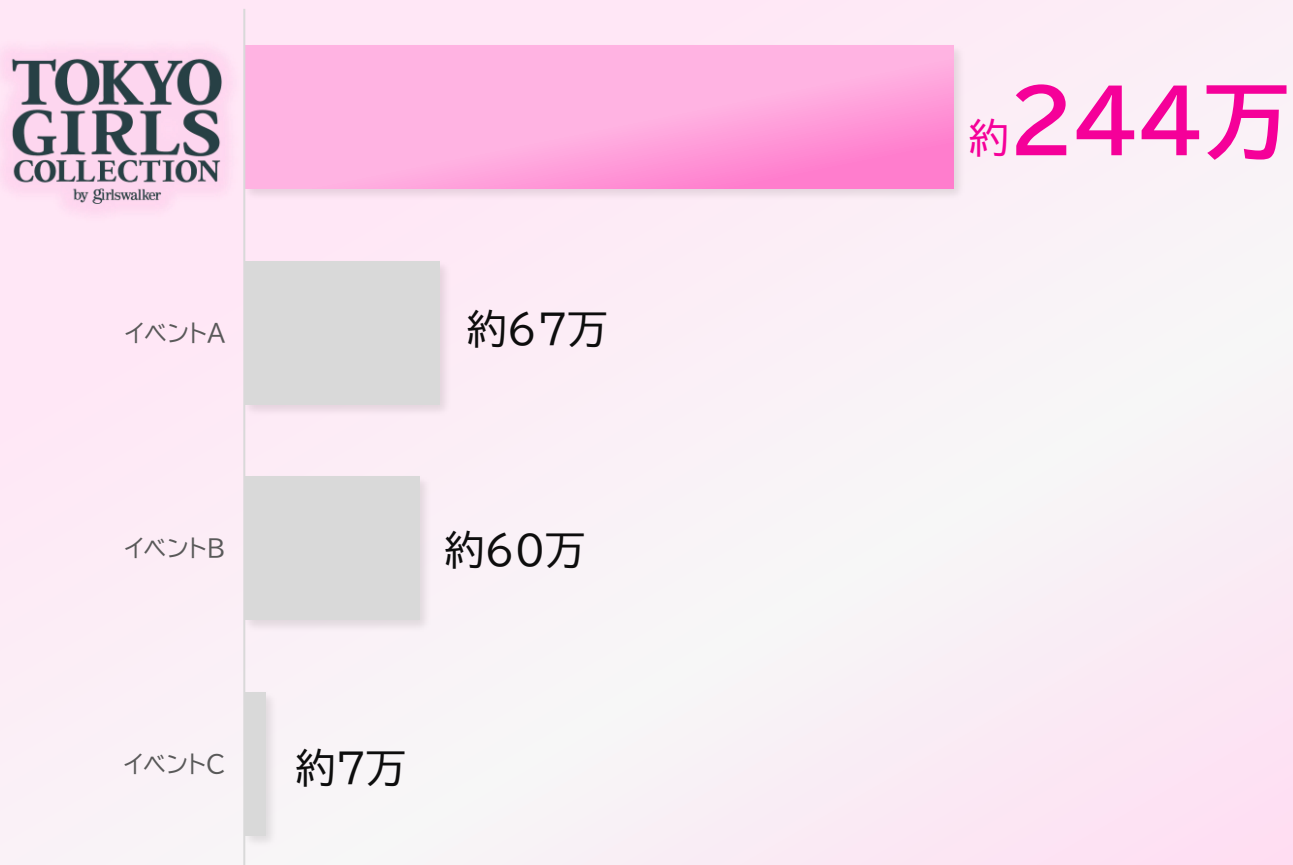
**40億** imp以上

TGC 2024 S/Sにおける実績。



国内外の名だたるブランド・サービス・商材のプロモーションなどの**商業的テーマ**のみならず、SDGsに力点を置いた演出や発信など、青年層と社会課題との懸け橋となる**社会的テーマ**まで、幅広く圧倒的な発信力を発揮

- 主要ファッションフェスタのSNS等メディアでのフォロワー数\*



- TGCの比較優位性

特定のメディアや企業グループに属さない  
全方位型の運営

事業の一部ではなく  
発信プラットフォームとしての  
ファッションフェスタ

確立されたブランド、ノウハウを  
他の事業・地域へ横展開

\* LINE、X、Instagram、Threads、TikTok、YouTubeにおけるフォロワー数合計(2024年9月2日時点)。

TOKYO  
GIRLS  
COLLECTION  
by Girlswalker

数多のコンテンツに**競争原理**が働き、

TGCは時代の先端をゆくトップコンテンツに  
スポットライトをあてる。

破壊と創造を繰り返し進化を目指す**自浄作用**が、

TGCのブランドを常に若く、強く保つ。

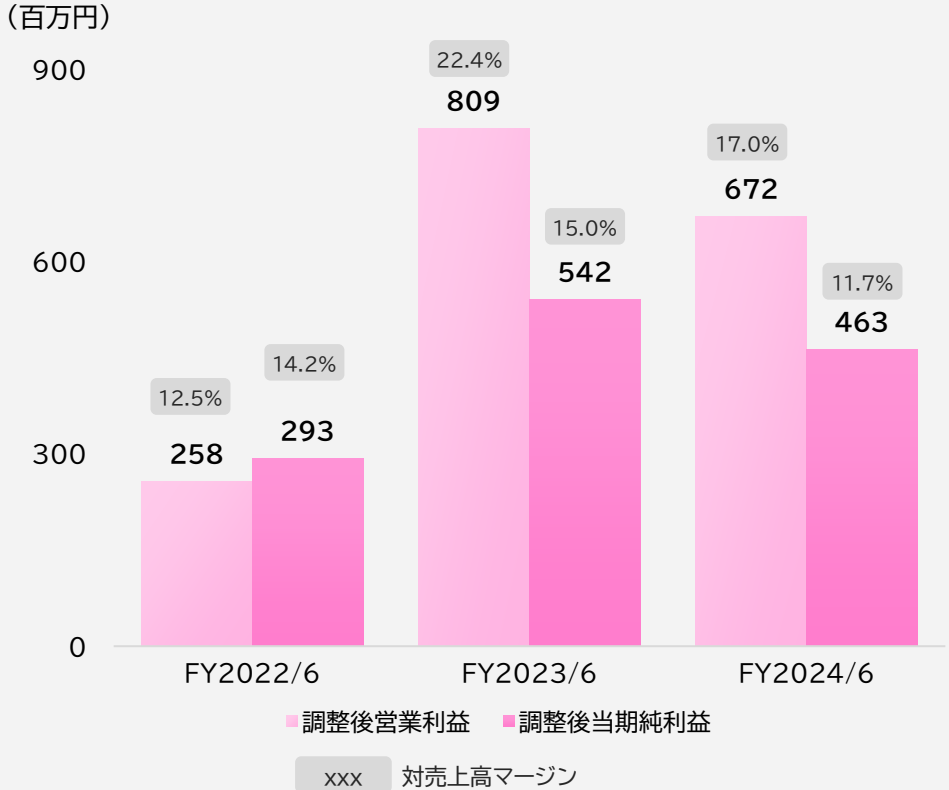


# コンテンツ

- 1 イントロダクション
- 2 W TOKYOの強みの源泉、TGCのブランド力
- 3 ブランド力に裏打ちされた、高い利益創出力
- 4 成長戦略、事業の発展性
- 5 補足資料

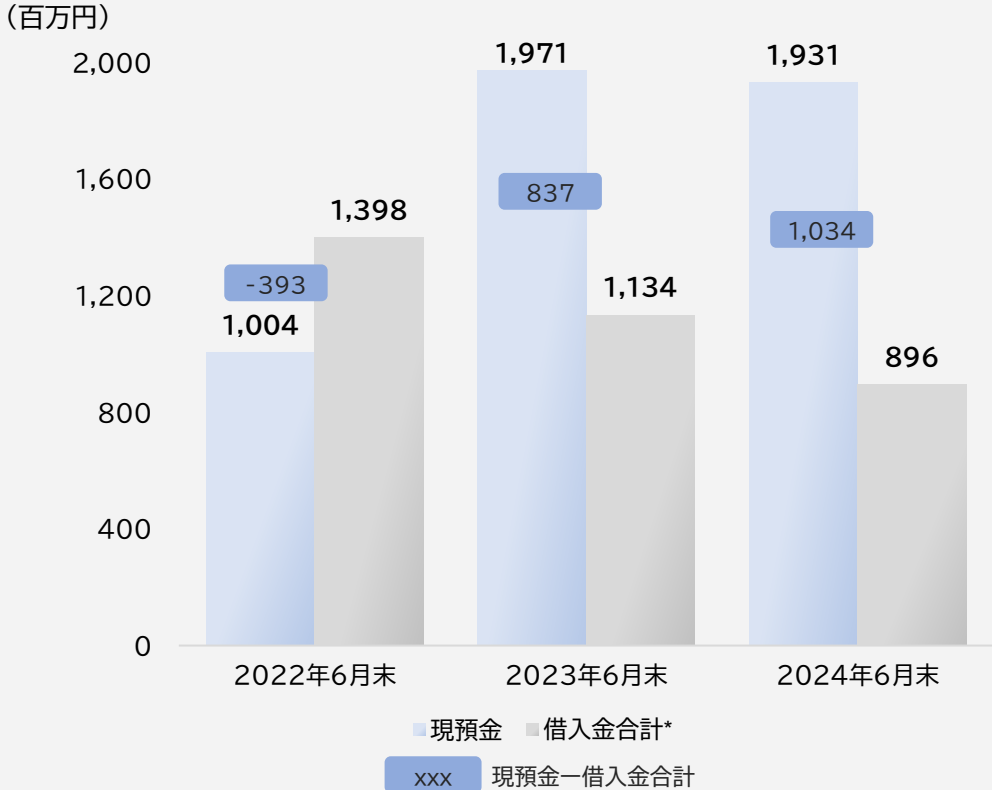
長期的な事業投資の裏付けとなる、高い利益創出力

コンスタントに高い利益率の実現



FY2024/6は物価・人件費高騰により利益率は一定程度低下するも  
一貫して高い利益率を維持

IPO以降、投資余力としての純現金残高は増



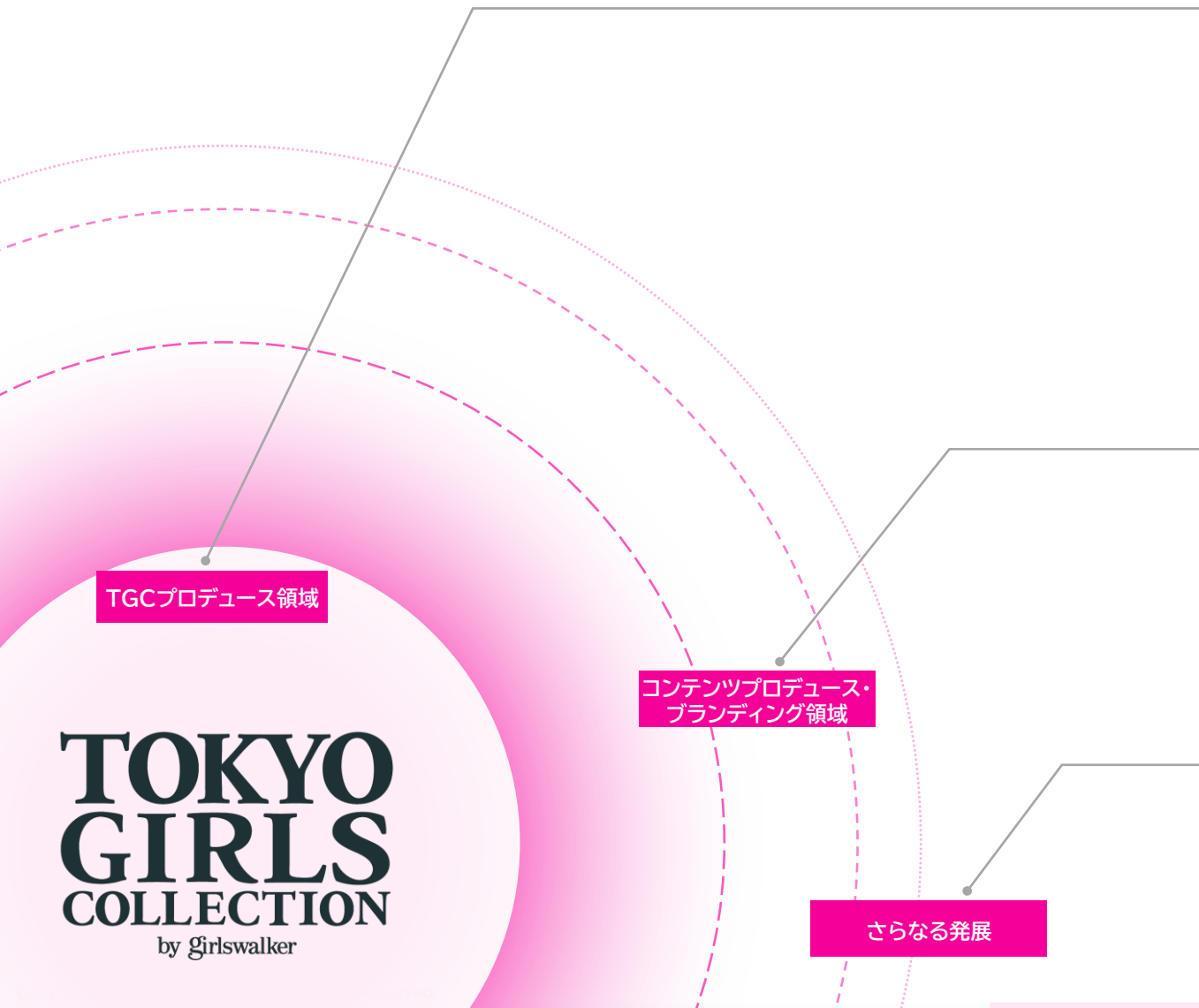
FY2023/6以降、現預金残高は借入金残高を超過。  
潤沢な投資余力を抱えている

\* 短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計。

# コンテンツ

- 1 イントロダクション
- 2 W TOKYOの強みの源泉、TGCのブランド力
- 3 ブランド力に裏打ちされた、高い利益創出力
- 4 成長戦略、事業の発展性
- 5 補足資料





**TOKYO  
GIRLS  
COLLECTION**  
by girlswalker

## 1 TGC東京開催の更なる発展:

- TOKYO GIRLS COLLECTIONの東京開催は、**ブランド創造をしながら利益を生み出す唯一無二のプラットフォーム。**競争力の源泉として、**更なる発展を追求**

## 2 TGC地方開催・シティプロモーションの一層の拡大:

- TGCの圧倒的なブランド力、青年層への発信力、イベント以外の成功事例等を活かし、多数の自治体との取り組み実績を、1,700を超える**日本中の自治体へ横展開**

## 3 コンテンツプロデュース・ブランディングを通じた高利益率事業機会の創出:

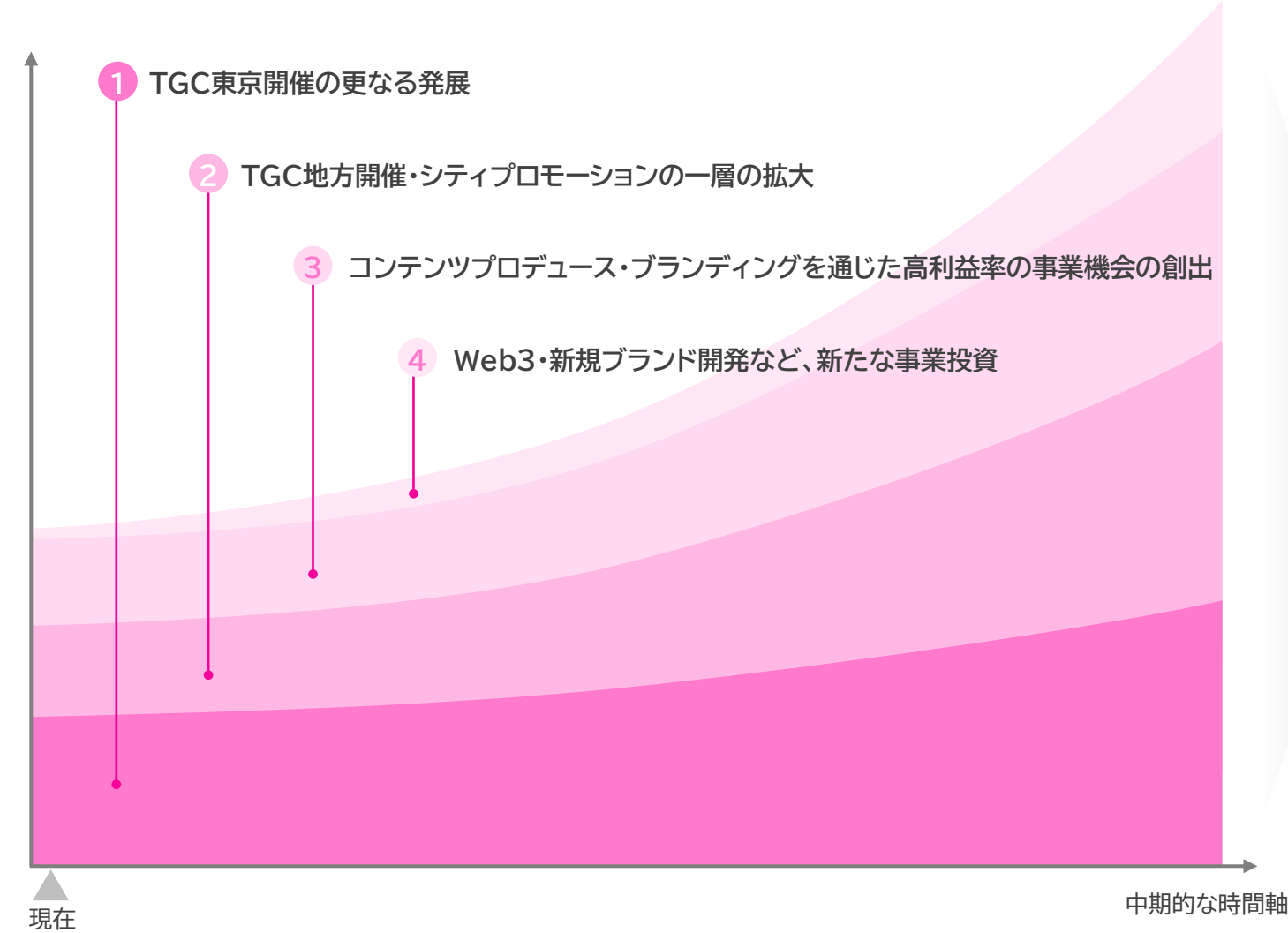
- コンテンツプロデュースノウハウや、TGCで培ったキャスティング力により時代にあう形で**様々な企業の商材をブランディング**する機会を享受
- TGCが他のサービスや商材とコラボレーションすることで、ブランドそのものが収益を生む、**効率的な収益機会**を創出

## 4 Web3・新規ブランド開発など、新たな事業投資:

- **TGCのブランド・TGCの熱狂を生む場が媒介**となり、自治体・金融機関・民間企業などあらゆるステークホルダーとの間で、地方創生・投資・事業開発・Web3など連携機会が生まれ、**W TOKYO単独での事業投資よりスピーディーに成長を実現**

# TGCのブランドを基礎に、収益源の厚みを増してゆく

売上高の規模感  
(イメージ)



成長戦略実現に向け、向き合う課題

- TGCブランドの更なる価値向上
  - ・ 青年層のニーズや時代の潮流を反映したコンテンツを企画、ブランド価値を高め続け、その価値を事業展開にて最大限に活用
- 他社及び地方自治体との提携
  - ・ 事業シナジーを生む多様な企業、及び地方創生で連携する自治体との提携を強化
- 優秀な人材の獲得・育成
  - ・ 時代やトレンドの変化に敏感で企業や自治体のニーズを汲み取り、付加価値を生み出す優秀な人材が、W TOKYO発展の基礎
  - ・ 人材が中長期的に活躍できる事業環境を整え、採用・育成に注力
- 海外事業展開
  - ・ 継続的な成長のため、海外、特にアジア圏への進出を重視
  - ・ 国内の圧倒的実績と、タイ、シンガポール、インドネシア等への進出実績、様々なパートナーとの連携を通じて、海外展開の好機を模索



「YOAKE entertainment」は  
Web3テクノロジーを活用した  
グローバルなエンターテインメント事業展開のため、  
W TOKYOが14%出資する合弁会社。  
(2023年12月設立)

● TGC 2024 A/Wで発表された事業展開 ー ①

MEN'S  
YOAKE  
AUDITION 2024

秋元康氏プロデュースによる次世代メンズグループオーディション。  
エンターテインメント業界の第一線で活躍を続ける各社が集まり  
世界で活躍できるグループの輩出を目指す。  
W TOKYOは、メンズグループが活躍できるプラットフォームを提供。

● TGC 2024 A/Wで発表された事業展開 ー ②

I D O L  
RUNWAY  
COLLECTION  
Supported by TGC  
2025

日本のアイドル達の様々な魅力を、  
国内のみならず世界へ発信し、活躍の場をさらに広げていく、  
アイドルが主役のファッションの祭典をYOAKE entertainmentが主催。

- 日時：2025年3月2日(日) 国立代々木競技場第一体育館
- 主催：株式会社YOAKE entertainment /  
AGESTOCK2025実行委員会



# コンテンツ

- 1 イントロダクション
- 2 W TOKYOの強みの源泉、TGCのブランド力
- 3 ブランド力に裏打ちされた、高い利益創出力
- 4 成長戦略、事業の発展性
- 5 補足資料

## 財務情報

(単位：百万円)

## ● 損益計算書

	FY2022/6	FY2023/6	FY2024/6
売上高	2,065	3,616	3,957
売上総利益	911	1,588	1,516
対売上高%	44.1%	43.9%	38.3%
販管費	817	942	1,008
対売上高%	39.6%	26.1%	25.5%
営業利益	93	645	508
対売上高%	4.5%	17.8%	12.8%
経常利益	87	620	496
対売上高%	4.3%	17.2%	12.5%
当期純利益	128	406	327
対売上高%	6.2%	11.2%	8.3%
<b>(参考)</b>			
調整後営業利益*	257	809	671
対売上高%	12.5%	22.4%	17.0%
調整後当期純利益*	292	542	463
対売上高%	14.2%	15.0%	11.7%

\* のれん償却額及び商標権償却額を調整した営業利益及び当期純利益。

## ● 貸借対照表

	2022年6月末	2023年6月末	2024年6月末
流動資産合計	1,458	2,296	2,431
現預金	1,004	1,971	1,930
固定資産合計	1,038	826	666
のれん	303	230	157
商標権	543	452	362
資産合計	2,497	3,122	3,098
流動負債合計	825	859	662
短期借入金	100	0	0
1年内返済予定の長期借入金	164	146	112
固定負債合計	1,150	992	783
長期借入金	1,133	987	783
負債合計	1,976	1,852	1,446
純資産合計	521	1,270	1,652

# 2024年6月期 通期業績予想と実績の比較

● 業績サマリー

(百万円)	FY2023/6	FY2024/6				
	実績	実績	前期比	業績予想	達成率	
売上高	3,616	3,957	341	9.4%	3,901	101.4%
売上総利益	1,588	1,516	-71	-4.5%	-	-
対売上高%	43.9%	38.3%				
販管費	942	1,008	65	7.0%	-	-
対売上高%	26.1%	25.5%				
営業利益	645	508	-137	-21.3%	670	75.7%
対売上高%	17.8%	12.8%				
経常利益	620	496	-124	-20.0%	662	74.9%
対売上高%	17.2%	12.5%				
当期純利益	406	327	-78	-19.4%	436	75.0%
対売上高%	11.2%	8.3%				
(参考)						
調整後営業利益*	809	671	-137	-17.0%	834	80.5%
対売上高%	22.4%	17.0%				
調整後当期純利益*	542	463	-78	-14.5%	573	80.8%
対売上高%	15.0%	11.7%				

● 業績予想と実績の差異

- 2024年6月期売上高は、前期対比9.4%増加し、業績予想に対し達成率は101.4%
- 制作業界の人手不足や人件費上昇、物価高騰の影響により売上総利益は前期対比4.5%減少
- 中途社員の積極的採用・給与水準アップ等、将来に向けて人材への投資を行い販管費は前期対比7.0%増加
- 上記の結果、業績予想に対する達成率で営業利益は75.5%、経常利益は74.9%、当期純利益は75.0%と業績予想に未達

業績予想に未達となるも、高い利益率を引き続き維持

\* のれん償却額及び商標権償却額を調整した営業利益及び当期純利益。



# 2025年6月期 通期業績予想

2025年6月期も案件増加により売上増加の見込み。コスト上昇のバランスを図りながら当期純利益358百万円(2024年6月期から31百万円、9.5%増)を予想。

(単位:百万円)	2024年6月期	2025年6月期	
	実績	予想	対2024年6月期
売上高	3,957	4,192	+234 +5.9%
営業利益	508	557	+49 +9.7%
(営業利益率%)	12.8%	13.3%	
経常利益	496	549	+53 +10.8%
(経常利益率%)	12.5%	13.1%	
当期純利益	327	358	+31 +9.5%
(当期純利益率%)	8.3%	8.6%	
一株当たり当期純利益	123.20	132.50	+9.30 +7.5%
(ご参考)			
調整後営業利益	671	720	+48 +7.3%
(対売上高%)	17.0%	17.2%	
調整後当期純利益	463	494	+30 +6.6%
(対売上高%)	11.7%	11.8%	

## ● 事業の前提

- TGC東京開催は年2回開催
- TGC地方開催は年3回以上開催(以下、公表情報のみ)
  - ↳2024年7月:TGC 松山 2024
  - ↳2024年10月:TGC 北九州 2024
  - ↳2025年1月:TGC しずおか 2025
- 地銀との連携協定の具体的取組みとして新たなシティプロモーション
  - ↳EMPOWER MIYAGI 2024 powered by TGC(仙台市 他)
  - ↳GOTEMBA MIRAI PROJECT 2024 powered by TGC(御殿場市)
- コスト上昇傾向を前提としつつ、サービスの付加価値を向上させ、利益率維持・向上のためのサービスの価格改定やメニュー設計を想定

## ● 事業成長に向けたリソース確保の考え方

- W TOKYO=プロデューサー集団  
企画営業・プロデュース機能を中心に人材採用する方針は従来通り
- TGCを活用した学生インターンからの新卒採用に一層注力
- 制作面・専門分野は各種協力先へアウトソーシングすることで、コスト面・品質面・スピード面のバランスを図る

## ● 代表取締役略歴



代表取締役

**村上 範義**

TGC創設から今日の成功までをけん引。  
TGCブランドの全てを熟知

第1回東京ガールズコレクションの立ち上げから関与。

2012年、TGCチーフプロデューサーに就任し、

キャスティング・クライアント営業・メディアリレーションのすべてを統括。

2014年に当社の前身であるF1メディアの代表取締役に就任後、

2016年に当社代表取締役に就任。

## ● 基礎情報

会社名 株式会社W TOKYO

上場市場 グロース市場  
(証券コード:9159)

設立日 2015年7月1日

本社所在地 東京都渋谷区神宮前5-28-5

事業内容 TOKYO GIRLS COLLECTIONのブランドを活用した、  
ブランディング・コンテンツプロデュース事業

代表取締役 村上 範義

人員数 従業員 52名  
(2024年6月末時点。役員・契約社員・アルバイトを含む人数 73名)

# 主要なリスク及び対応策

	リスクの内容	対応策	顕在化の可能性	影響度
ブランド	<p>当社グループの展開するTOKYO GIRLS COLLECTIONは、2005年以降の継続的投資により、競争優位性の高いブランドへ進化してまいりました。今後も継続的にブランド価値を高めるとともに、その価値を最大限に活用した事業展開を行ってまいります。不測の事態により適切なタイミングでの投資等ができず、ブランド価値が低下した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループはブランド価値や社会的信用の維持及び向上に努めて事業を遂行しておりますが、当社グループやTOKYO GIRLS COLLECTIONを巡る風評が拡散された場合、ブランド価値が低下し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。</p>	<p>今後も最先端のテクノロジーや最旬のトレンドを取り入れたキャストイング・コンテンツプロデュースによりブランド価値向上に努めてまいります。</p>	中	中
業務・資本提携等	<p>当社グループは、他社との業務提携、資本提携等を通じて事業の拡大、スピードアップに取り組んでいく方針であります。提携にあたっては事前に他社の強みを理解し、提携の効果について十分な検討を行ったうえで、当社グループと提携先の持つ経営資源を融合することにより、事業シナジーを発揮することを目指しますが、当初見込んだ効果が発揮されない場合、当社グループの事業展開、業績に影響を及ぼす可能性があります。</p>	<p>提携にあたっては事前に他社の強みを理解し、提携の効果について十分な検討を行ってまいります。</p>	中	中

その他のリスクは有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

## 本資料に関する注意事項

- 本資料は、当社の事業や業績に関する情報提供のみを目的として作成されたものであり、当社の株式その他の有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には、当社の見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって作成されています。
- これら将来予想に関する記述は、経済情勢や景気動向、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、結果として、将来の実際の経営成績等が本資料に記載された内容と異なる可能性があることにご留意ください。
- 次回の「事業計画及び成長可能性に関する事項」の開示時期は、2025年6月期の決算発表時期(2025年8月)を予定しております。